



平成28年11月11日

各 位

会 社 名 トレイダーズホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 金丸 勲  
(JASDAQ・コード 8704 )  
問合せ先 執行役員 財務部長 朝倉 基治  
(TEL 03-4330-4700 (代表))

### 連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成28年8月5日に公表いたしました平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）について修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 連結業績予想値の修正

平成29年3月期通期の連結業績予想修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当期純利益
従来予想(A)	6,750	110	10	0	0円00銭
<b>今回修正予想(B)</b>	<b>3,090</b>	<b>△1,050</b>	<b>△1,160</b>	<b>△1,160</b>	<b>△14円76銭</b>
増減額(B-A)	△3,660	△1,160	△1,170	△1,160	
増減率(%)	△54.2	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	2,938	△101	△77	20	0円31銭

#### 2. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年9月30日）の業績動向を踏まえるとともに、当社子会社である株式会社ZEエナジー（以下、「ZEエナジー」といいます。）が3か所（『かぶちゃん村森の発電所』、『安曇野バイオマスエネルギーセンター』及び『もがみまち里山発電所』）で製造をおこなっている木質バイオマスガス化発電装置の納品が従来予想に比べ大きく遅延していたことから、同完成工事高の平成29年3月期通期の予想値の精査を行いました。その結果、従来予想と大きな乖離が認められたことから、通期連結業績予想値を修正することといたしました。

営業収益は、従来予想6,750百万円から3,660百万円下方修正し、3,090百万円(対前期比 152百万円増加)となる見込みです。

これは主に、従来予想で木質バイオマスガス化発電装置製造に係る完成工事高を3,970百万円と見込んで

おりましたが、未着工となっている案件に係る完成工事高約3,170百万円を今期中に売上計上することは困難と判断し、同額を下方修正し完成工事高を800百万円に減額したことによります。未着工案件の当期売上への計上が難しいと判断した理由は、着工中の上記3案件の工期が延びたことで当期内における新規案件の着工時期を来期以降へ延期せざるを得なくなったことが主な要因ですが、その他に、一部の案件において、予定発電規模に必要となる原材料（木質チップ）の確保が十分ではなかったことや送電に係る電力会社側の受け入れ制限等の課題が認められたことで、発注元や関係する電力会社との追加的な協議を継続する必要性が生じたことなども当期中の着工及び売上計上が難しいと判断した理由となります。

なお、工期が遅延している上記3案件に関しては、平成28年10月13日に公表した「第三者割当による第3回転換社債型新株予約権付社債及び第11回新株予約権の発行に関するお知らせ」において、『かぶちゃん村森の発電所』は平成28年10月中の引渡予定、『安曇野バイオマスエネルギーセンター』及び『もがみまち里山発電所』は平成28年11月末の引渡予定と記載しておりましたが、『かぶちゃん村森の発電所』及び『安曇野バイオマスエネルギーセンター』に関しては、各発注元より、これまで追加的に実施してきた改修工事を踏まえた上で、より安定的に連続した発電ができるよう十分な連続稼働テストを実施し万全を期した引渡しの意向を受けたことから、協議の上、納品を平成28年12月末に変更しております。『もがみまち里山発電所』に関しては、発注元と協議の上『かぶちゃん村森の発電所』及び『安曇野バイオマスエネルギーセンター』の連続稼働テストの状況を踏まえて同発電所の調整運転の実施を予定しており、平成29年1月からの売電開始を目指しております。

また、営業収益の下方修正を行った要因としては上記に加え、第2四半期連結累計期間の実績において、トレーダーズ証券株式会社（当社子会社）の外国為替証拠金取引『みんなのFX』等のトレーディング損益が従来予想を下回ったことがあげられます。

営業利益は、従来予想110百万円から1,160百万円下方修正し、1,050百万円の営業損失（対前期比949百万円の損失増）となる見込みです。これは主に、第2四半期連結累計期間の実績が上記のトレーディング損益減少及び完成工事高減少により従来予想を下回る618百万円の営業損失となったことに加え、下半期（平成28年10月1日～平成29年3月31日）の完成工事高の予想が従来予想を約3,170百万円下回ったことにより、下半期の営業利益は従来予想を下回る約430百万円の営業損失となると見込んだことによります。

経常利益は、上記理由に加え、従来予想でZEエナジーの関連会社である株式会社ZEデザインが『もがみまち里山発電所』の売電開始により発生する利益を持分法投資益で約17百万円計上しておりましたが、売電開始の遅延により13百万円下方修正したことから、従来予想10百万円の経常利益から1,170百万円下方修正し、1,160百万円の経常損失（対前期比1,083百万円の損失増）となる見込みです。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、従来予想の収支均衡から1,160百万円下方修正し、1,160百万円の当期純損失（対前期比1,180百万円の損失増）となる見込みです。

（注）本資料に記載しております業績に関する予想値は、いずれも本資料の発表日現在において入手可能な情報による判断及び仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合がありますので、予めご了解ください。

以上